

平成二十二年度 都情研特別研究部夏季研修会講演（抄録）

## 「クラスで気になる子のための サツとツール&ふわつとサポート」 所沢市教育委員会健やか輝き支援室支援委員 阿部 利彦 先生

### 一、はじめに

私は「子どもは宝物」であると考えていますが、日頃から子ども達を救ったり、導いたり、サポートしたりしている先生こそ日本の宝であると考えています。

### 二、特別支援教育の対象

教室にはパニックを起こす子、突然きれる子、集団行動が出来ない子など様々な子どもがいます。発達障害の有無に拘わらず先生方が日頃から指導している全ての子どもが対象に含まれます。

### 三、現場の先生方の気持ち

日頃から先生方は何らかの困り感のある子どもに対して「何とかしてあげたい。」と考えています。ところが通常学級では、「でもこの子だけみているわけにはいかない。」と、

その子に集中して支援をしたいが、

実際にはそうできない、と感じているのではないのでしょうか。現場の先生方は十分頑張っていると考えています。私は、特別支援教育で子どもへの支援を充実させるために、担任の先生を支援することが根幹であると考えています。先生方は巡回相談や大学教授等からの支援も受けますが、自分の指導への注意や専門的な説明等に不安を感じながら聞いているのではないのでしょうか。私は、先生方の気持ちに寄り添うことが必要だと思っています。

学校には子ども達とすばらしい関わりをしている先生が多くいますが、それを認められる機会は少ないのではないのでしょうか。先生方は声かけや対応、指導、教材の工夫等を頑張っています。ですから、よい関わり方や指導について仲間同士で意識化して

認め合い、改良していつてほしいと思います。すでに行っているすばらしい指導を見つけ、それを広げていくことが特別支援教育で大事なことです。

### 四、現場の先生方への支援

支援に必要なことは、先生方の苦勞や負担を減らすことに配慮した計画です。なぜなら保護者対応、調査、地域への貢献など、先生方の仕事が増加し、担任への負担が大きくなっているからです。さらに、対象の子どもだけでなく、周囲への影響も大きく、対応が間に合わず、学級が一度落ち着かなくなると、長期戦となってしまうます。そのような状態を避けるためには、明日からできることを先生の疲労度や余裕に合わせて少しずつ提案するとよいでしょう。

また、特別支援会議で後味のよい相談や話し合いを行い、先生方が安心して次回も利用しやすくなることも必要です。専門知識も必要ですが、まず、先生方や努力していることに尊敬やねぎらいの視点を持つことが大切です。

### 五、疑似体験を通して(体験内容省略)

先生が意図したわけではないのですが、その子にとって不適切な声かけを受けた子どもの気持ちを体験し

てほしいと思います。課題に対して隣の子ができていて自分ができていないと悲しい気持ちになると思いますが、発達障害をもつ子どもは毎日これを積み重ねることになり、努力に気づいてもらえない、結果に結びつかない等の誤解が生じます。LDで不登校の女子が相談室で「努力していることが伝わりますように」という言葉を残したことがありました。ぜひ、小さな努力に大人が気づいて味方・応援団になつてほしいと思います。

### 六、事例から見る子どもへの課題

あるクラスで勝ち負けに執着する子どもが、教育センターでSST(ソーシャルスキルトレーニング)に参加して、少しずつ周囲に助けを求められるようになりました。しかし、その子どもが周囲へ助けを求めると、周囲の子どもは手助けを拒否するという環境がありました。また、発達障害をもち非行傾向にある中学生の子がパニックを起こした時、周囲とは離れた場所で、担任が声かけすると納得して落ち着いて教室に戻れました。しかし、周囲が話をぶり返し、その子を刺激するということが起こりました。このような発達障害をもつ子どもにとって望ましくない環境です。逆に周囲の子どものほ

うにSSTが必要なのではないかと  
さえ思えてくる事例です。

どの子どもも、先生に自分だけ大  
切にされたい、自分に敏感で相手に  
鈍い、楽しいことや楽なことに流れ  
る、気持ちの切り替えが苦手といっ  
た傾向があります。支援の必要な子  
どもに個別指導をすべきですが、周  
囲を見ていないと、場合によっては  
「あいつだけずるい」等の声があが  
ることがあります。

### 七、気になる子どもの周囲

発達障害をもつ子どもを取りまく  
周囲への対応が重要となります。

①問題行動を真似る子ども「模倣  
犯」の特徴と対応

- ・学習の理解度が低い。
- ・基本的な生活習慣が身に付いてい  
ない。
- ・自主性がない。幼児性・依存心が  
強い。
- ・口癖は「ひま。つまらない。」

説得する手段は通用しません。学  
習補充をして学力をつけることが最  
大の支援です。具体的な目標を段階  
的に持たせ、小さなことでもほめて、  
授業への参加度を高めることが大切  
です。

②わざと刺激をする子ども「天敵」

の特徴と対応  
・学力は中程度で、人の失敗にめざ

とい。

・目立ちたがり。

・内言が未発達。すぐ言い訳する。

・行動基準がぶれやすい。影の司令  
塔の圧力で動く。

・平気で仲間を裏切るような脆弱な  
対人関係。

・弱い子を「からかう」ことが遊び。

・口癖は「俺だけじゃない」

このタイプも説得する手段は通用  
しません。少し負荷をかけた課題や  
目標設定をして達成感を味わわせる  
とよいでしょう。対人関係のSST  
をさせたり遊びのレパートリーを増  
やしたりすることが必要です。

③影でコントロールする子ども「影  
の司令塔」の特徴と対応

- ・学力は高い。
- ・世話役に化けていることがある。
- ・相手を怒らせるまでを楽しみ、学  
級が騒ぎになると参加しない。
- ・大人と子どもの前で態度が違う。
- ・クラスで一目置かれている。
- ・道徳心が育っていない。
- ・大人への不信、生活のストレスが  
あり、心に闇を抱えている場合が  
ある。

・口癖は「いつまでやってんだ。」  
彼らの大人心に訴えた知的に高い  
ほめ方が有効です。プライドが高い  
ため、他の子どもの前での注意は避  
けます。話を聞いてストレスの発散

法と一緒に考えることが必要です。

信頼関係を作り「真のリーダー」を  
育てるとよいでしょう。

④トラブルに期待する子ども（ギャ  
ラリー）、担任に反抗的になる子  
どももいます。

### 八、学校・家庭でふわつと言葉を

人と人との「関わり合い」で、相  
手の価値や存在を認める態度をプラ  
スの「ストローク」と言います。ふ  
わつと言葉は言語的プラスのスト  
ロークです。ストロークは身体に貯  
金されてたまり、自分に戻ってくる  
ものです。

ネグレクトなど虐待を受けている  
子や発達障害をもつ子はふわつと言  
葉を言われる機会が少なく、伝わり  
にくいいため、マイナスのストローク  
がたまりやすくなります。意識的に  
多くのふわつと言葉をかけてほしい  
と思います。

クラスが落ち着いていると、どの  
子どもも心がゆつたりとします。S  
STも大事ですが、温かい言葉で満  
ちた学級を育ててほしいと思います。  
それには、学校や家庭で感謝の言葉  
や挨拶など、意識して大人同士、仲  
間同士で使い、言葉を磨いていくべ  
きだと考えます。

### 九、学級を育てる

個々への声かけ、仲間作りは特別  
支援教育で大切です。学級の土台作  
りには『ソーシャルスキルワーク』  
(日本標準)などを活用して道徳の  
時間などに学年に合わせた課題をみ  
んなで考え、学級の社会性を高める  
とよいでしょう。

特別支援教育は、先生方が普段  
行っている地道な取り組みが重要な  
要素となっています。子ども達に  
とって居心地のよい学級は、先生方  
にとっても快適な学級といえます。  
快適な学級にするためには担任、学  
年、教育相談、特別支援教育、学校  
全体の協力や支援により学級を高め  
ていくことが必要です。

### 十、学級での配慮のポイント

①クラスの生活のルール、発言や発  
表のルールを明確にする。

・クラスの守ることを決める。

・話し方、聞き方のルールの提示。

②学級の装飾物、掲示はできるだけ  
シンプルにする。

③本日の活動や予定を文字、絵や写  
真で提示する。

・大事なポイントを絞って表示し、  
見通しを持たせる。過剰な提示は  
表示がないと行動できなくなつた  
り、逆に刺激になったりすること  
があるので注意する。

④授業時間に必要なものを意識することが出来る支援をする。

・作業(学習)環境を整えるために、具体的に何をするか伝える。

・徐々に自分で環境を整えることを意識させ、最終的に自分で判断できるようにする。

⑤作業や活動の開始終了の時間を明確にし、タイマーなどで確認できるようにする。

⑥課題がはやく終わった児童・生徒には代替課題を用意する。

・何もしない時間を作らず「待つ」ことを支援する。

⑦大声に頼らない指導を心がける。

・座席の配慮、机間巡視の活用

・声の大きさや関わり方の配慮

・声かけの種類を工夫

⑧感覚過敏などへ配慮する。

・苦手な音や感覚は訓練・練習しても克服できるわけではない。

⑨予定の変更はできるだけはやく知らせ「気持ちの切り替え」を支援する。

⑩日直、掃除・給食当番等の仕事や手順を確認できるようにする。

・役割を明確化、視覚化する。掃除分担当表、掃除マップ、掃除ルートの表示等。

支援に様々なアイデアを使う時には、その支援方法が自分、対象の子ども、学級の雰囲気合っているか

を考慮して、思いやりを持って活用してほしいと思います。

### 十一、特別支援で大切なこと

その子どもの良さ、持ち味を大切にしつつ、学校生活をより豊かにするために、その学校の先生の技術や持ち味、地域の文化などをいかした地道な支援を行ってほしいと思います。先生が普段取り組んでいる基本的な心構えや経験が特別支援教育の土台であり全てです。特別なことではないのです。

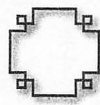
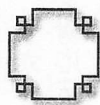
また、相手が何かをしてくれるのが当然ではありません。保護者が来てくれた、先生が配慮してくれた、子どもが笑顔だったことにお互いに感謝して、「ありがとう」から始まる特別支援教育であると考えています。

### 十二、質疑応答

〈家庭への介入について〉

保護者への対応は難しいです。両親の中で考えを変えられそうな方から伝えていきましょう。保護者自身、子どもとの関わり、対応、言葉かけの種類が少ない場合があります。できそうな言葉かけから具体的に段階的に提案していきます。さらに、次の相談や会った時に、少しでも子どもにも効果があったことを伝えて、

保護者の努力を認めます。親育てをして、協力を促します。次の相談につながるには、話は一時間程度にすることも必要な配慮です。



## 「通常学級の特別」ではない支援教育 学級経営・授業づくり・保護者との

### 連携協力に焦点をあてて

植草学園短期大学教授 佐藤 慎二 先生

#### 一、「気づき」の重要性について

① ADHD等の子どもが抱きやすい困難さ

多くの研修会で話題にされる次のようなやりとりがあります。みなさんのクラスにこういうお子さんはいませんか？  
T「教科書36ページの間4開いて。」

C「先生、今何て言ったの？」

T「ちゃんと聞いていなくちゃだめじゃないか。」

ちゃんと聞いているのですが、ADHD等の子は情報を入れる箱が普通より小さい場合があるとイメージして下さい。一つの情報を入れるといっぱいで、次の情報が入りにくい。「36ページ」と「間4」と2つの情報提示をされ、わからなくなってしまうのです。自

分で指示を聞き逃すという「気づき」はあるのです。「いつも話を聞いていないちよつと困った○○君」ではなく、「話を聞きとることに苦手で困っている○○君」と見方を変えることが大切です。見方を変えて支援を変えます。

例えば「36ページを開きます。」「間4をやりませう。(低学年なら)指で押さえてごらん。」といった具合です。さらに、先生が教科書を子どもに示しているならば、視

覚による支援も入るので、いくつものバイパスができることになるのです。このような指示は、どの子にもわかりやすいため、学級全体の成績があがるということがよくあります。

百ます計算などが苦手なお子さんもいます。視覚的短期記憶の

箱が小さい人です。トップの成績ですが、百ますをする縦横どの列を見ていたのかわからなくなり、マトリックスがうまく埋められないのです。ある学級では10×10と5×5の両方のプリントを用意して、誰でも好きな方を選べるようにしました。

また、ADHDの方は「周りの環境のために集中できなかった。」と語ることがあります。この困難さは、環境要因に左右されやすいということを理解することが大切です。ですから、学級経営・授業づくりはとて大切になるのです。

②LD等の子どもが抱きやすい困難さ  
まず、書きに関する擬似体験を行います。ひらがなを鏡文字で書いてみましょう。書きやすいですか。たいていの人は書きにくいですよね。でも、鏡文字を書くLDの子は今のうちに我々の何倍も苦労して文字を書いていることがあります。しかも「みんな自分と同じくらい大変なんだ」と思っているのです。すると、どれほど努力しているでも、できないのは自分のせいだと自分を責めることになります。大人がアンテナを張って気づいてあげないと、こういう子たちはずっと苦しみ続けていくこととなります。

あるLDのお子さんは国語のテストで、文章題は漢字も(視写で)書いて満点なのに、思い出して書く漢字テスト部分は全く書けず、担任の先生に「漢字の練習をがんばりましょう」とコメントされていました。当時の先生にLDという概念はなかったのですが、これからは違います。この方は中学からは校長先生に頼んでノートパソコンの使用を認めてもらいました。中学生になって英語で困難さを感じることもあります。英語の先生は特にアンテナを張ってほしいと思います。日本語と違い、例えば、同じ「TH」というスペルで何通りの読み方ができるでしょう？また、ひらがなの羅列と同様に文字と文字の切れ目がわからないと単語の意味がわからないのです。

③高機能自閉症・アスペルガー症候群等の子どもが抱きやすい困難さ  
社会性、対人関係、コミュニケーションの困難さ、こだわりが強い、等々の困難さがあります。中には、当たり前の暗黙のルールがわからないという事で困ったり、とんでもないことをしてしまったりする、ということがあります。

暗黙の了解とされている内容については具体的に教えてあげるこ

とが必要です。モデルを見る、ロールプレイする、「くする方がいいよね」と紙に書いたものを読んで(視覚情報で)確認するなどです。また、相手の表情がうまく読めない、という困難さがある場合もあります。顔は見えているのにそこから情報を読み取れないということ。従って、相手が不快な表情でもお構いなしでズバズバと言いつづけてしまうことになるのです。

相手の立場になって物事を考えるのが苦手という困難さから相手とトラブルになったときには、紙を用意し、コミック風に吹き出しを書いてそれぞれの立場の気持ちを確認する方法もあります。

④「気づき」の本質は何か？

みなさんは、視覚障害の子に墨字を指して「ここに書いてあるものを読んでみる。」とは言わないですよね。その子が努力してもできないことがわかっていいるからです。では、ADHD傾向のある子がじつとしていられないとき、「なんで座っていられないんだ。」と叱ることはどうでしょうか？この子はただわがままなんだ、というケースもあるかもしれません。しかし、ADHDであれわがままであれ、「座っている状態」を「座

る努力をしている子ども」と見方を変え、「それでいいんだよ」と認めることなのです。

このような考えにたつことが、本質的な支援方法であると思います。

## 二、校内支援体制構築の基盤のた

### めに

①学級経営・授業への着目  
通常学級の特別支援は「〇君への特別な方法」ではありません。あるAさんには「ないと困る」支援で、どの子にも「あると便利」な支援を見つけ増やすことです。具体的には参考文献を参照してください。

②一年生と校内支援体制  
書字困難を含め、サインは必ず一年生の時にあります。一年生の間にその子の苦手さ・困難さに学級担任が気づき、校内で共有化することです。これは担任による特権的なアセスメントです。問題が複雑化する前に、予防的に先手を打ちます。

③本人の視点で引き継ぐ  
その子のできること、できる状況を引き継いでいくことが大切です。また良くない面については背景と対応法を引き継ぎます。適応状態の良い子ほど、どの支援方法

が良いのかを丁寧に引き継いでください。そして、入学・進級に際して事前に担任が会い、校内を案内するなど、本人の立場で安心感を手に行き継ぎをお願いします。

### 三、今日からできる！学級経営・10の「S」

①組織としての理念を大切に学級一どの子のよきも苦手さも支える

②生活・組織のルールが明確な学級ソーシャルスキルの育成

③生活習慣を大切に学級

④（教室の）正面の簡素な学級

⑤整理・整頓・整然・清掃・清潔を大切に学級

⑥視覚の手がかりを活用する学級  
— シンプルに情報を提供する

⑦スケジュールと活動の終点を明確に示す学級—見通しは力なり

⑧静かな時間を確保する学級

⑨席の位置の最適化と姿勢（椅子や机の高さ）に目を向ける学級

⑩称賛を大切に学級

### 四、今日からできる！授業づくり・10の提案

①教科書・ノート準備のタイミン  
グやそのやり方を明示する—担任が変わっても全てのクラスで

同じやり方（ミニマムスタンダード）

②導入を工夫する—フラッシュカードで復習、まずはノートテイク、など、脳を温める活動を

③授業の流れを示す—ニュース番組のようなメニュー表示

④授業の型を一定にする—同一教科では特に変わらない方がよい

⑤授業の進め方を工夫する—称赞的に：タコ丸・ネコ丸などマルつけのバリエーションをつける。一回につき、一つだけ作業を指示する。

⑥指示や説明の長さの適切性—説明・指示の簡潔化、一文一動詞

⑦表現の適切性—具体的に、肯定的表現（しないよ↓するよ）

⑧黒板の使い方を工夫する—きれいな黒板・正面、文字・行間・罫線・チョークの工夫、板書の構成（黒板の分割法）、板書のタイミング、板書のスピード、板書での立ち位置、子どもによる板書

⑨机間支援を工夫する—一斉支援と個別的支援

⑩視覚情報や作業・運動動作を活用する—授業中に「動く」時間を用意する。音読、プリント配布・回収の合理的な動き

### 五、今日からできる！保護者との連携協力・10の提案

①保護者との連携は子どもと担任の信頼関係が基盤である。さらに保護者同士のリレーションをよくする努力を。保護者の場合も子どもが一年生の時からの支援が大切。

②親は「希望」に生きる・子どもに期待して生きる。最も早く気づき、最も早く悩む親。それでも「大丈夫、大丈夫」と信じて育てる。それは親らしいあり方。それを受け止めることが大切。

③発達障害なんて親は知らないの  
で、折り合いをつける時間も特別支援教育である。理解を深めるための時間として前向きにとらえる。

④困っているのは子ども本人。

⑤親にこそ子どものいいところを伝える。“希望の共有”子育ての喜び・悩みとその支援をする。お母さんにこそ、「お母さんが頑張ってきたから〇〇さんにはいいところがたくさん見られるね！」と伝える。

⑥親を追い込んだり、孤立させたり、焦らせたりしない。

⑦支援者と話すことが心地よい関係づくりを。「北風と太陽」の話を参考に。

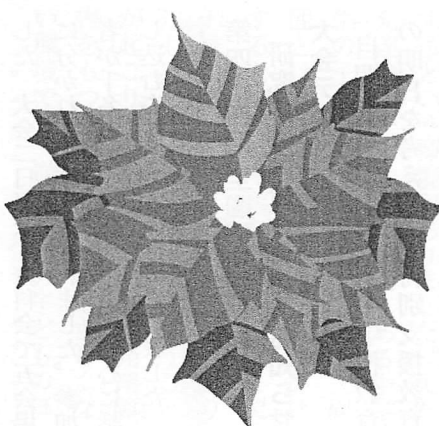
⑧説明責任を果たす。支援者が保護者に伝える時に、自分が今まで指導してきたことの説明をする。「ここまでではできなかったが、こういうところができない。」「だから応援の先生にも入ってもらって一緒に頑張りませんか。」目的は支援方法の共有化である。

⑨チームで取り組む

⑩“親は一生、教師は一時”教師の一時は子どもの一時”教師が関わる時間はたった一年かもしれないが、子どもにはもう戻れない一年である。その意味で学校の営み、教師の仕事というのは、責任は重いがやりがいある尊い仕事なのです。

#### ◎参考文献◎

「通常学級の特別支援—今日からできる40の提案」（日本文化科学社）



### 夏季集中研修会報告

練馬区立丘丘小学校

坂井 英子

情緒障害等通級指導学級の担任を対象とした夏季集中研修会が八月三日、四日の二日間、千代田区立千代田小学校をお借りして開かれました。参加者は小・中学校を合わせて両日とも二百二十数名という多くの参加者がありました。

一日目は「新しく情緒障害等学級の担任になった先生の質問に答えます！〜こんなとき、どうする？〜」というテーマで公開ディスカッションを行いました。シンポジストは齊藤先生（八王子市立由井第一小）、石川先生（世田谷区立松原小）、小林先生（練馬区立上石神井中）、司会は小林先生（豊島区立南池袋小）にお願いしました。子ども

の対応の仕方、保護者との接し方などについて具体的に話して頂いた後、十名前後のグループに分かれ、参加者一人ひとりが抱えている各学級の問題や現状について話し合いました。

二日目の午前は「私の体験から〜特別支援教育に望むこと〜」という演題でNPO法人えじそんくらぶの高山恵子先生にご講演いただきました。

AHDの当事者である先生から具体的なケースと支援法、特に脳科学研究から考えた効果的な支援や生活についてお話を伺いました。また、実行機能の障害と薬物療法について、先生の実体験からその効果について知ることができました。自ら問題解決をしようとする子を育てるために、アンバランスな部分（個人因子）を認めながら、失敗体験をプラスに転換する周囲のサポートやセルフエスティームを高めるための支援（環境因子）を整えることの重要性を感じました。

午後は実技研修を行いました。コミュニケーション・音楽指導の実践（大田区立馬込第三小・鈴木先生）、CST（コミュニケーションスキルトレーニング）学習（杉並区立富士見丘小・石野先生、大谷先生）、運動・ゲームの紹介（江戸川区立南葛西第三小・五十嵐先生、渋谷区立神南小・井倉先生、千代田区立千代田小・若林先生）、創作活動（杉並区立東田中・川見先生）の四分科会に分かれて活動しました。

毎年、情緒障害等学級が増設される中、他地区の先生方と交流し、実践交換していくことの重要性を感じた研修会でした。

### 第四十三回 全国情緒障害教育研究協議会 愛媛大会報告

江戸川区立本一色小学校

有澤 直人

七月二十八日、二十九日に愛媛県松山市において大会テーマ「一人一人のニーズに応じた質の高い教育の推進〜連携の質の向上を目指して〜」のもと開催されました。一日目の記念講演では岡山大学教授の佐藤暁先生が「子どもも教師も元氣が出る授業づくり」という演題で実際の授業場面を基に、具体的な支援方法を説明して下さいました。通常の学級の授業の中で、一人一人の学び、子ども同士の学び合い・かわり合いを大切にしている視点について改めて気づかせていただきました。基調講演では、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の石塚謙二先生が障がい者制度改革推進会議の動向も含めて最新の情勢について説明して下さいました。シンポジウムでは、コーディネートとして愛媛大学教授の花熊暁先生、シンポジストとしてつばさ発達クリニックの藤岡宏先生、愛媛県高機能自閉症・アスペルガー症候群親の会の森本早苗さん、伊予市立郡中小学校の岡本香澄先生が、それぞれの立場で提言をして下さり、医療と保護者、学校の連携のネットワークを作ることの重要性を指摘されま

した。大会二日目は、分科会で五会場に分かれて討議がなされました。参加者が千名という大盛会の中、熱心に話し込む姿があちこちに見られました。

### 第四十四回 全国情緒障害教育研究協議会 東京大会のお知らせ

大会テーマ  
「自閉症スペクトラムの学校教育の明日を考える〜特別支援教育時代における自閉症への生涯にわたる支援〜」

期日  
平成二十三年七月二十八日（木）  
〜七月二十九日（金）

場所  
国立オリンピック記念青少年総合センター及びセシオン杉並

### 内容

記念講演  
講師 目白大学 山崎晃資先生  
基調講演・シンポジウム・分科会  
大会実行委員長  
杉並区立大宮小学校長 曾我部和広

### 編集後記

広報に関するご意見、ご感想がありましたらお寄せください。

〒042-1723-1300

町田市立成瀬台小学校

編集・発行 広報部

印刷 刷 株白峰